

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 御幸小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	47人	算数	47人	理科	47人
第5学年	国語	65人	算数	65人	理科	65人

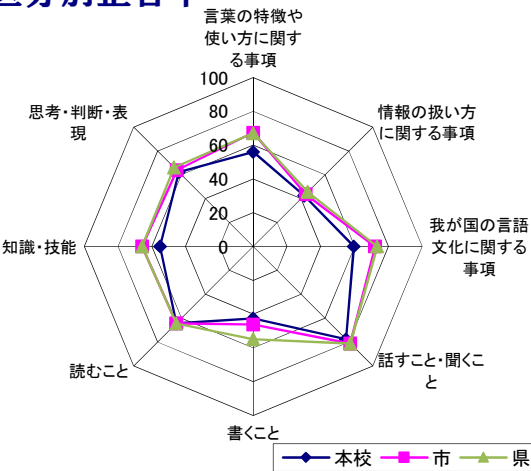
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	56.0	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	42.6	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	59.6	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	77.7	81.2	81.2
	書くこと	42.6	46.2	54.9
	読むこと	64.4	64.3	64.5
観点	知識・技能	55.1	65.7	65.7
	思考・判断・表現	62.2	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

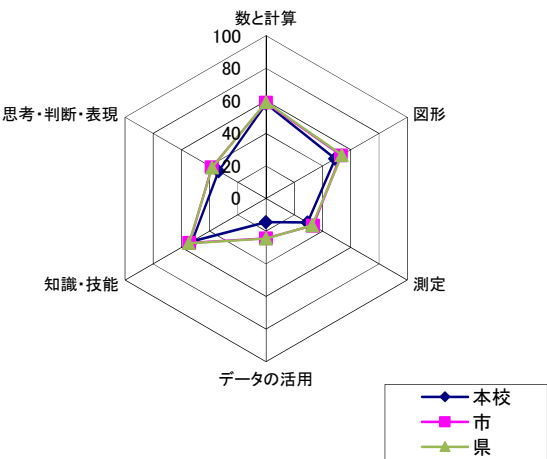
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は56.0%で、市の平均を11.4ポイント下回った。 ○主語と述語の関係を捉える問題の正答率は、市の平均と同程度である。 ●漢字の読み書きは、市の平均より低く、無回答率も高い。	・新出漢字だけでなく、教科書の「漢字を使おう」のような復習単元や漢字ドリルの復習ページを活用して、3年生の漢字も繰り返し学習できるようにする。 ・学習した漢字は使って文章を書くように促すなど、他教科でも意識して漢字を習熟できるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は42.6%で、市の平均と同程度である。 ○国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかをみる問題では、市の平均と同程度である。	・様々な場面で国語辞典を活用し、語彙を高めながら情報活用力を高めていく。単元テストでは、漢字辞典の使い方に課題が見られるので、定期的に漢字辞典に触れる活動も取り入れていく。各種辞典についてはタブレット端末を使って、オンライン上の電子辞書を活用することもできるので、活動に応じて利用していく。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は59.6%で、市の平均を12.5ポイント下回った。 ●へんとつくりを組み合わせる漢字を作り、使わなかったつくりを選ぶ内容であり、正答率は市の平均を大きく下回った。	・新出漢字を学習するときには、部首や成り立ちについてもふれるようにする。また、漢字ドリルに部首や成り立ちの情報が書かれているので、児童自身で確認していくように意識付けをする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は77.7%で、市の平均を3.5ポイント下回った。 ○話し合いの参加者の発言内容に着目して、司会者の発言として適するものを選ぶ問題の正答率は83.0%と、市の平均を5.6ポイント上回った。 ●記述式の問題で、参加者の発言の内容に対して、自分の考えを理由を挙げながらまとめる問題の正答率は市の平均を13.2ポイント下回った。	・話し合いの中で相手の考えや話し合いの論点に沿った発言をする力についてはついてきているが、自分の意見をまとめて文章にすることには課題が見られる。日々の授業の中で自分の考えを文章で表したり、宿題で短い作文を出したりするなど、自分の思いを文章に表す経験を重ねることで、作文への苦手意識をなくしていきたい。
書くこと	平均正答率は42.6%で、市の平均を3.6ポイント下回っている。 ○指定された長さで文章を書く問題や、自分の考えを明確にして文章を書く問題の正答率がどちらも市の平均と同程度である。 ●段落の役割を理解し、2段落構成で文章を書く問題の正答率が、市の平均を12.8%下回っている。	・普段日記を書く際に、条件を提示して2段落以上の構成で書いてみるなど、段落の意識が高まるように工夫して取り組ませる。 ・物語文や、説明文を扱う際に、段落ごとに何が書かれているのか、文章構成についても理解できるようにする。 ・作文を書く際には、いきなり文章を書き始めるのではなく、書きたい内容やそれに関連した情報を文章構成を整理してから書かせるようにする。
読むこと	平均正答率は64.4%で、市の平均と同程度である。 ○物語文において、登場人物の行動の理由を選ぶ問題では、正答率が市の平均を7.7ポイント上回った。 ●文章の要約を読み、空欄に適する語を書き抜く問題の正答率が61.7%と、市の平均と同程度であるが、無回答率が25.5%と市の平均を大きく上回った。情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する力には個人差が見られる。	・本校の研究として、本に触れる機会を増やしたり、登場人物の様子や気持ちの変化を考える学習をくりかえし行ったりすることで、読む力は確実に伸びてきている。しかしながら、読解力や要約する力には個人差があるため、引き続き学年や個人の発達段階に応じて授業の単元や言語活動を工夫して授業づくりを行っていきたい。具体的には、文章を読んで短くまとめる力をつけるために、本の紹介カードを作って友達に広めるなどの学習が有効と考える。

宇都宮市立御幸小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	58.3	58.9	59.2
	図形	48.9	53.0	53.7
	測定	29.3	33.1	32.6
	データの活用	14.4	24.4	24.6
観点	知識・技能	52.4	54.3	54.7
	思考・判断・表現	33.8	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

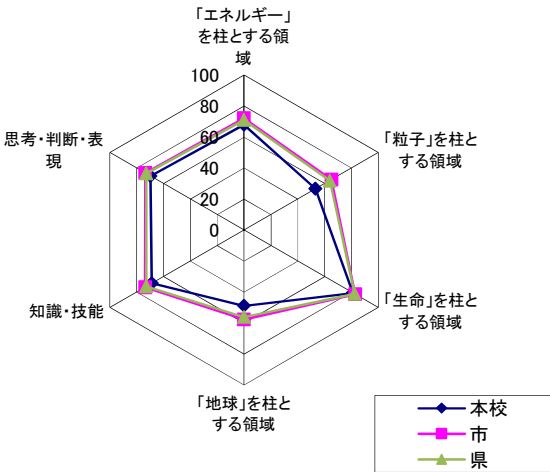
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は58.3%で、市の平均と同程度である。 ○大きな数の表し方について正しいものを選ぶ問題では、市より8ポイント高い。 ○分数の正しい大きさを答える問題では、市より12ポイント近く高い。 ●かけ算の計算の仕方について説明する問題では、正答率が低く、市の平均を大きく下回っている。	・計算スキルやAIDリル、朝の学習の時間を活用して繰り返し計算練習を行うとともに、宮っ子ステップアップシートを計画的に実施していくことにより、計算力を高めていく。 ・わり算の筆算や小数などの計算問題では、機械的に計算をしていくだけでなく、計算の過程に含まれている補足的な計算の意味を確認したり、文章で書かせたりする活動を取り入れることで、言葉による説明ができるようにしていく。
図形	平均正答率は48.9%で、市の平均よりも4.1ポイント低い。 ●円の性質を利用して正三角形を作図する問題では、市より5ポイント近く低い。 ●二等辺三角形の性質をもとにして図を選ぶ問題では、市より8ポイント低い。	・円や三角形の学習では、作図の方法を図形の特徴と関連付けて捉えさせ、定規やコンパスなどを用いて図形をかいたり確かめたりする活動を充実させる。 ・正三角形や二等辺三角形の学習では、具体物を用いて角を合わせたり、辺の長さを比べたりする授業を展開することにより、図形の性質を捉えられるようにする。
測定	平均正答率は29.3%で、市の平均より3.8ポイント低い。 ●地図から2つの道のりを読み取って差を求める問題や、時刻や時間の経過から途中の時間を求める問題は、正答率が低く、市よりもポイントが大きく低い。 ○重さが同じになる組み合わせとして、正しいもの	・長さや道のりの学習では、身の回りにある物を計測する活動を取り入れたり、生活の中で使われている場面を想起したりすることで、単位と実際の長さを結び付けながら実感をもって理解できるようにする。 ・他教科との関連を図りながら、身近な物や時間を計測する活動を意図的に設けていくことにより、長さや時間についての量感を身に付けさせていく。
データの活用	平均正答率は14.4%で、市の平均より10ポイント低い。 ●目盛りの付け方の異なる2つのグラフでは比べることができない理由を説明する問題や、示されたテーマについて適切なグラフを選び理由を説明する問題では、正答率が低く、市の平均を下回っている。	・グラフや表などの資料を、問題解決のために活用する力を高めるために、資料の読み取りに終始することなく、グラフの特徴を考察したり説明したりする活動を設定していく。 ・表や棒グラフに表す活動では、児童の興味・関心を高め、問題意識が感じられるような課題を工夫して設定し、より身近なものとして感じられるようにする。また、他教科においても、実際にグラフを読んだり、書いたりする活動を取り入れ、実生活と算数科のつながりを意識させていく。

宇都宮市立御幸小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	67.9	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	53.2	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	81.1	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	48.9	57.7	56.2
観点	知識・技能	68.8	73.8	72.8
	思考・判断・表現	69.7	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、67.9%で、市の平均より4.2ポイント低い。 ○日光を集めたときの明るさとあたたかさについて理解しているかどうかをみる問題では、正答率が市の平均を8.6ポイント上回っている。 ●電気を通すものについて理解しているかどうかをみる問題では正答率が市の平均より13.7ポイント低い。	・多くの実験結果を整理する活動を通して、電気を通すものや磁石につくものを正しく理解し、その性質をもとに実験結果を推測するような話し合い活動を取り入れる。 ・授業の導入や振り返り時にAIDリル等を用いて、知識の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、53.2%で、市の平均より12ポイント低い。 ●形を変えても重さは変わらないことについて理解しているかどうかをみる問題では、正答率が市の平均より9.4ポイント低い。 ●同じ体積でも、ものの種類によって重さが違うことについて表と関連付けて考えることができるかどうかをみる問題では、正答率が市の平均より14.6ポイント低い。	・実験結果を数値だけで理解するのではなく、自分なりの粒子イメージで図に表す活動等を取り入れ、「なぜ変化しないのか」「なぜ同じ重さなのか」を理解させる。 ・実験結果を図や表にまとめ、そこから分かることを話し合い、自分の言葉でまとめる活動を行う。 ・授業の導入や振り返り時にAIDリル等を用いて、知識の定着を図る。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、81.1%で、市の平均と同程度である。 ○生き物の差異点や共通点を見いだすことができるかどうかをみる問題では、正答率が市の平均を7.2ポイント上回っている。 ●植物の一生について差異点や共通点を見出すことができるかどうかをみる問題では、正答率が市の平均より14.4ポイント低い。	・「葉の成長・花・結実・枯れる」の観察機会を損なうことのないよう、計画的に観察記録を取らせたり、シャッフルされた観察記録を正しく並べ替えさせたりするなどして、知識の定着を図る。 ・授業の導入や振り返り時にAIDリル等を用いて、知識の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、48.9%で、市の平均より8.8ポイント低い。 ●方位磁針の使い方を身に付けているかどうかをみる問題では、正答率が市の平均より17.5ポイント低い。 ●かげが太陽の反対側にできることを理解し、かげふみの動きと結び付けられているかどうかをみる問題では、正答率が市の平均より4.8ポイント低い。	・方位磁針などの用具を正しく使って、正確に観察記録ができるよう使い方のポイントを明確に示し、知識の定着を図る。 ・太陽やかげの動きの説明時には、必ず方位を声と手で示したり、様々な場所で太陽の動きを説明したりしながら、方位を意識づけるようにする。 ・授業の導入や振り返り時にAIDリル等を用いて、知識の定着を図る。

宇都宮市立御幸小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「教科などの学習は、しょう来的のために大切だと思いますか」の質問では、国語・社会・算数・理科の教科において肯定的回答が9割を上回った。本校の重点目標である「キャリア教育の推進」について、今後も家庭と学校と連携を図りながら進めていきたい。

○「算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」や「理科の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」の肯定的回答は、市の平均を上回っている。授業で学習した内容を、身の回りの生活と結び付けて考えようとしている児童が多い。今後も児童の身近にあるものを題材として用いたり、単元のまとめの際に発展的な課題に取り組んだりすることで、日常生活に学習を生かす場を意図的に設定していきたい。

○「1か月に、何さくらい本を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしをのぞく)」では、「11冊以上読む」の回答が13.9ポイント市を上回っている。また、「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金)、一日当たりどのくらいの時間、読書しますか(教科書や参考書、まんがやざっしをのぞく)」では、1日当たり30分以上読書すると回答する割合は市の平均と同程度であった。朝の読書の時間やボランティアによる読み聞かせ、週1回のクラスでの図書室利用、各学年に応じたチャレンジブックなど、本校の読書推進活動の成果が表れてきたのではないかと考えられる。

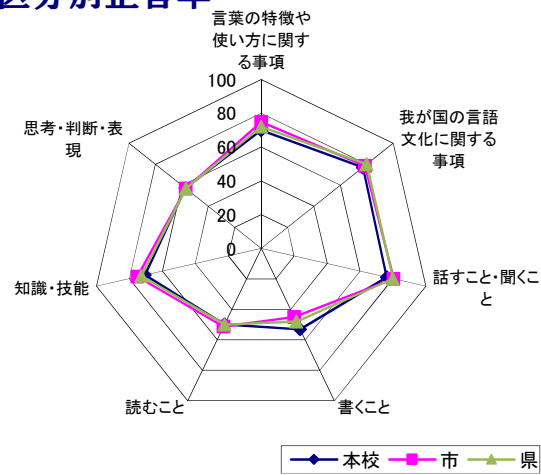
●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」などの話し合い活動について、肯定的回答が市の平均を下回っている。ICTの活用も踏まえ、何より児童が自分の意見をもてるような授業づくりに努めるとともに、発表の場を工夫し友達と意見を交換する楽しさやよさを実感できるように工夫していく。

●「ふだん、一日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか」や「ふだん、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」の質問では、4時間以上が24.5%と、いずれも市の平均を上回っている。また、「学校のきまりを守っている」や「家でのきまりや約束を守っている」の肯定的回答は、それぞれ89.8%、81.6%と、市の平均を下回っている。メディアの使い方やルールについて、改めて学級活動や道徳、日々の生活の中で指導するとともに、家庭と連携しながら、ルールやきまりを守る心を育てていきたい。

宇都宮市立御幸小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	70.0	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	76.9	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	76.2	80.4	80.0
	書くこと	53.1	45.1	48.0
	読むこと	50.0	51.3	50.0
観点	知識・技能	70.6	75.2	72.8
	思考・判断・表現	57.3	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

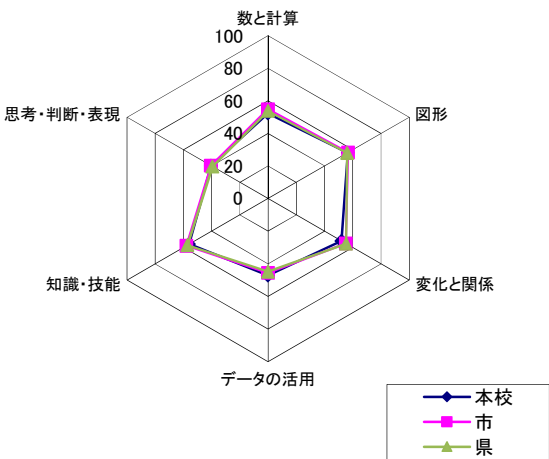
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は70.0%で、市の平均より4.8ポイント低い。 ○漢字を正しく読む問題は、90%以上の正答率であった。 ●漢字を正しく書く問題や修飾語の問題は、市の平均正答率を10ポイント以上下回るものがあった。	・漢字の書き取り能力については、ドリルやプリントを活用し、繰り返し取り組んだり、ミニテストで定着を確認したりしながら学習を進めていく。 ・文法については、AIドリルや復習プリントの効果的な活用方法を工夫し、学習内容の定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は76.9%で、市の平均とほぼ同程度である。 ●文を読み、正しい慣用語の使い方を選ぶ問題は、市の平均と同程度であった。	・単元ごとに新しく触れる言葉の意味調べを取り入れることで辞書の活用を促し、言葉への興味関心を高める。 ・読書を通して語彙力を高める。
話すこと・聞くこと	平均正答率は76.2%で、市の平均より4.2ポイント低い。 ○話し合いの内容を聞き取り、自分の考えをまとめる問題は、市の平均と同程度であった。 ●話し手の伝えたいことを捉える問題は、市よりも6.7ポイント低い。また、相手の発言をもとに自分の考えをまとめる問題は、市よりも7.6ポイント低い。	・授業中においてペアやグループ、全体など、学習形態を工夫した話し合い活動を多く取り入れる。 ・自分の考えとの共通点・相違点を意識しながら聞き取ったり、自分の考えを筋道立てて分かりやすく話したりする活動を取り入れ、話す・聞く力を付けていく。
書くこと	平均正答率は53.1%で、市の平均より8ポイント高い。 ○内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書く問題は、市よりも13.9ポイント高く、事実と自分の考えを書く問題は、市よりも8.1ポイント高かった。	・朝の学習や自主学習の日記指導などで、テーマと文字数を決めて文章を書く機会を設ける。 ・書いた文章を発表し、感想を述べ合う活動を通して、書く楽しさに気付かせる。
読むこと	平均正答率は50.0%で、市の平均とほぼ同程度である。 ○叙述を基に段落相互の関係を捉える問題は、8.3ポイント高い。 ●文章を読んで感じたことや分かったことを共有する問題は、12.8ポイント低い。	・日常の読書活動や並行読書を通して、様々な文章に慣れさせ、読解力を向上させていく。 ・長文読解については、自分で見つけた物語の面白さを互いに伝え合うことで、読み物の楽しさを理解し、長文に慣れさせる。

宇都宮市立御幸小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	52.3	54.9	53.7
	図形	56.4	56.6	56.1
	変化と関係	51.9	55.1	55.2
	データの活用	47.1	45.5	44.8
観点	知識・技能	55.9	57.8	57.2
	思考・判断・表現	40.4	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

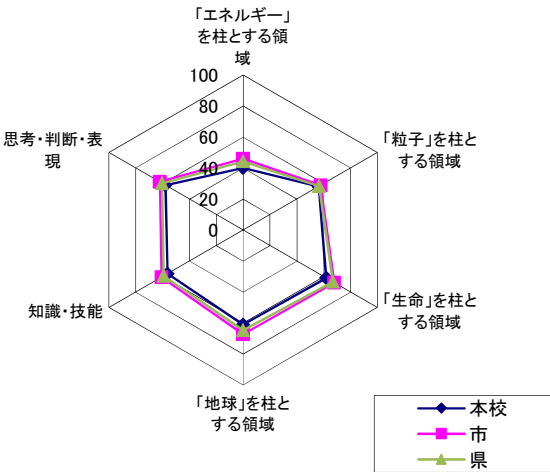
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は52.3%で、市の平均より2.6ポイント低い。 ○大きな数の表し方について正しいものを選ぶ問題では、市より6.8ポイント高い。 ●小数の仕組みを理解しているかの問題では、市より11.6ポイント低い。 ●目的に応じた見積りの方について説明する問題では、市より6.1ポイント低い。	・小数の仕組みについては数直線や位取図などを使って視覚的に理解できるように、授業中などで適宜取り入れていく。 ・見積りの方については、具体的な事象をもとにして考え、切り上げるかどうか適切に判断することができるようにする。 ・既習内容については、フォローアップ問題やAIDリルを活用して、計算の習熟を図る。
図形	平均正答率は56.4%で、市の平均と同程度である。 ○直方体の面に垂直な辺をすべて答える問題では、市より8.2ポイント高い。 ●三角定規を利用して、正しい角度を選ぶ問題では、市より9.7ポイント低い。	・平面図形や立体の学習では、具体物を操作したり、視覚化したものを観察したりする活動を行い、理解できるようにしていく。 ・三角定規を利用する学習では、三角定規の角度の確認を十分に行い、実際に操作する活動を通して角度が求められるようにする。
変化と関係	平均正答率は51.9%で、市の平均より3.2ポイント低い。 ○割合を使った比べ方について説明する問題では、市より4.1ポイント高い。 ●割合のしくみを理解しているかの問題では、市より10.0ポイント低い。 ●表を横に見て、使用した棒の本数がいくつ増えているかを答える問題では、市より5.5ポイント低い。	・割合のしくみについては、身近な具体例をあげたり生活と結び付けたりする活動を通して理解できるようにする。 ・変わり方について、表や図などを使った様々な表し方ができるようグループで考えを共有したり広げたりする活動を行っていく。
データの活用	平均正答率は47.1%で、市の平均と同程度である。 ○グラフから読み取れることとして、正しいものを選ぶ問題では、市より3.2ポイント高い。 ○折れ線グラフから必要なことを読み取る問題や、二次元の表の意味を理解し、傾向を読み取る問題では、市の平均と同程度である。	・表の数が何を表しているかについては、授業中でのペア学習やグループ活動で自分の考えを発表する場を積極的に設け、自分の考えを言葉にできるようにする。 ・他教科と関連付けて、表やグラフから分かることを考える活動を取り入れ、必要な情報をもとに問題解決する力を育てる。

宇都宮市立御幸小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	40.0	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	56.2	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	61.9	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	61.0	67.2	64.6
観点	知識・技能	56.3	60.8	59.2
	思考・判断・表現	57.9	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率40.0%で市の平均より6.0ポイント低い。 ○回路に流れる電流の大きさが乾電池ひとつのときと同じであることの理解をみる問題では、市と同程度の正答率である。 ●簡易検流計の針のふれる向き、針のふれ具合が電流の大きさを表すことの理解についての問題では、市より8.2ポイント低い。	・実験器具の使い方や名称についてしっかりと学習して実験に臨めるようにする。また、AIDリルの活用によって繰り返しの学習により知識の定着を図る。 ・テスト後においてもパワーアップシート等を活用して復習することで、基礎基本の定着を図っていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率が56.2%で、県と市の平均と同程度である。 ○仮説が正しかった場合に得られる実験の結果を想像する問題においては、市より11.3ポイント高い。 ○湯気と水蒸気の違いについて、理解しているかどうかをみる問題では、市の平均より12.2ポイント高い。 ●実験の結果からあたためたときの金属と空気の体積の変化を比較する問題では、市より13ポイント低い。 ●実験の結果からあわの正体を推測できかの問題では、市より9.4ポイント低い。	・実験の結果から分かったことを読み取り、まとめる活動の際に、身近なことに関連付けて理解を深めていく。 ・変化を比較する実験においては、実験前にどう変化するか予想を立てたり、方法を考えたりする活動を取り入れ学び合いの充実を図っていく。 ・目に見えにくいものについての推測は、難しいと思われる。教育的動画やタブレット等の活用により理解を深めていきたい。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は61.9%で、市の平均を5.9ポイント低い。 ○筋肉のはたらきについて考える問題においては、市と同程度の正答率である。 ●季節ごとの動物の活動についての理解を選ぶ問題では、市より11ポイント低い。 ●植物の成長やようすについての理解を見る問題では、市より6.5ポイント程低い。	・植物の成長やようすにおいては、学校の畑や校庭のサクラの木、中庭などを理科の時間等に観察し、その後の変化にも興味をもてるようにする。実物の観察する機械を十分に設けていきたい。 ・教育的動画により植物の成長のようすや変化を、視覚的に理解する。 ・AIDリルやプリントの学習を宿題に出すなど、学習内容を確実なものにしていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は61.0%で、市の平均より6.2ポイント低い。 ○星の動きと星座のならび方についての問題、月の動きの理解についての問題では、どちらも市の平均を2.1ポイント上回っている。 ●気温のはかり方についての問題では、市の平均より13.1ポイント低い。天気と一日の気温の変化の関係についての記述問題では、市の平均を18.4ポイント下回っている。	・デジタル教材などの映像で、視覚的に児童の理解を高めていく。 ・身近な体験と学習内容を関連付けて考え、理解を深めるような場面を設定していく。 ・学習の中で科学的な視点を提示し、それをもとに実験や観察結果をまとめたり、考察したりすることで、学習内容を理解し説明できる力が付けていけるよう支援する。

宇都宮市立御幸小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○質問項目の「勉強をしていて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある」や「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」において、県の肯定回答率を上回っている。各教科・総合的な学習の時間などで、自分が疑問に思ったことを解決するために図書資料や本校が主体的・対話的で深い学びの実現のために取り組んできた一人一台端末を効果的に活用することで、調べ学習の充実が図られたことによるものと思われる。今後も児童の学習への意欲がさらに高まるように支援していきたい。

○理科の学習に関する質問項目では、いずれの質問でも県と同程度の肯定回答率であった。他の教科についても宇都宮モデルに即した授業展開をすることで、学力向上を図りたい。

○「人と話すことは楽しい」の質問項目では、9割以上の児童が肯定回答だった。また、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の質問では、89.1%となっている。今後も、学級活動や各教科の指導において自他のよさを認め合う機会を意図的に設定していきたい。

●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」において、県の肯定回答率を6.4ポイント下回った。「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」や「自分の行動や発言に自信をもっている」などの質問項目も県の肯定回答率を下回っていることから、ペアからグループ学習、そして発表の場へと意図的に話し合いの形態や方法を工夫して設定することで、話す・聞くことの苦手意識がなくなるような授業展開の工夫を図りたい。

●「家で、宿題をしている」の項目は、県の肯定回答率を上回っているものの、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」や「家で、学校の復習をしている」、「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」などの質問項目では、県の肯定回答率を下回っている。全校で「学習がんばり週間」を設定し、自分から計画的に学習に取り組むことの習慣化を図り、保護者からの励ましのコメントをもらうことで、家庭と連携を取りながら基礎基本の定着を図りたい。

宇都宮市立御幸小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	- 朝のぐんぐんタイムの充実（漢字・計算・「書く」活動） - AIドリルの活用とステップアップシートの実施 - 読書活動の充実	漢字の読み書きに関しては、4・5年生ともに正答率が低い。また、計算問題に関しても、計算の仕方を理解して説明する問題がともに市の正答率を大きく下回っている。
言語活動の充実	- 学習のねらいに沿った本の選定や並行読書の実施 - 共同作業や問題解決的な学習など、児童同士が協力し合ったり教え合ったりする交流の場の設定	「話すこと・聞くこと」の区分において自分の考えをまとめる問題では、市の正答率を4年生は13.2ポイント、5年生は7.6ポイント下回っている。指定された長さや事実を伝える文章を「書く」問題に関しては、市と4年生は同程度、5年生は8.1ポイント上回っている。
話し合い活動・学び合いの場の充実	- 話し合いの必然性のある課題や場の設定 - ワークシート、学習形態の工夫 - 児童の考えをつなぐ教師のコーディネート等の支援	どちらの学年も「人と話すことは楽しい」の質問項目において9割以上の児童が肯定回答だった。「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると」、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」といった項目に対しては、県の肯定回答率を下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
引き続き漢字の読み書きや計算問題の定着を図る必要がある。図形や数量に関する正答率が市の正答率を下回っている。	- パワーアップシートの活用 - 児童の実態に合わせた学習内容と指導方法の工夫	朝のぐんぐんタイムの充実に加え、日々の学習の中でパワーアップシートを活用し、学習内容の定着の確認をする。単元の内容や児童の実態に合わせて、I.Tの活用や習熟度、少人数学習などを効果的に取り入れる。
友達との「会話」を楽しむことはできるが、学習としての「対話」となると自分の考えや意見を話すことに苦手意識が見られる。	- ワークシートや学習形態の工夫 - 児童の考えをつなぐ教師のコーディネート等の支援	自分の考えをまとめやすいワークシート等の工夫やペア学習からグループ、全体へと段階を踏むことにより、対話することの楽しさを味わえるようにする。発達段階等に応じて、教師がコーディネートすることで、個々の自信につなげていく。